

清田入植150周年記念 清田区まち歩き講座を開催

清田区発祥の地である清田小学校(清田1条4丁目)周辺の碑や歴史の痕跡を訪ね歩く「清田区まち歩き講座」が2023年6月24日(土)行われました。参加者は12人でしたが、郷土史家らから直接説明を聞きながらの歴史散歩でした。

これは清田区民センターが主催し、あしりべつ郷土館の協力で実現しました。説明役は郷土史家の了寛紀明さんと北海道文化財保護協会副理事長の田山修三さん、そして地域メディア「ひろまある清田」代表の川島亨さんです。3人ともあしりべつ郷土館の運営企画委員です。

清田小学校前では、開拓功労碑を見学しました。今から150年前の明治6年(1873年)、今の清田小付近に岩手県人の長岡重治が最初に入植、開拓を始めました。長岡重治は駅逓、旅館、木材業を営み、水田を創設し、自費で道路・橋を造り、神社を興し、学校を造るなど清田地域の基礎をつくりました。重治の子らの子孫も地域の発展に努め、その功労を称えるために、この開拓功労碑が昭和22年(1947年)建立されました。

清田小の校庭の一角に「ゆめ田んぼ・あしりべつ」という水田があります。これは、かつてこの地域が水田地帯であったことを今に伝えようと、札幌清田ライオンズクラブが寄贈したものです。毎年、清田小児童が田植えと稲刈り体験をしており、その説明も行われました。

清田小学校前を通る道路(旧道=旧国道36号)は、もともとは明治6年(1873年)に完成した「札幌本道」と呼ばれる幹線道路でした。この道路沿いに、かつては休泊所(旅館)、清田郵便局(今の地域さろん「ぽっけ」)、診療所、長岡商店、清田消防署、公民館などが建ち並びました。



開拓功労碑を見学=清田小学校前



厚別神社の旧本殿を見学=厚別神社境内



厚別神社発祥の地を散策=清田緑地内

この後、厚別神社(あしりべつ神社)まで歩き、境内で三橋宮司さんから神社の歴史をうかがいました。今の神社本殿(昭和45年造営)の右奥に、大正6年(1917年)に造営された旧本殿がひっそりと保存されています。これも清田区の貴重な歴史遺産です。神社境内には、忠魂碑や清田会館の跡碑、上相撲記念碑などがあり、それぞれ解説が行われました。

最後に、参加者は清田緑地に向かいました。この一角の森の中に「厚別神社発祥の地」碑があります。また、近くには長岡家の小さな祠があり、赤い鳥居が森の木々の間に見えました。参加者は「先人の苦勞を知り、とても良かった」等々、充実した時間を過ごせたようでした。このような取り組みを2024年も行いたいと思います。

明治期 清田区にあった月寒村の「学田地」



1. 「学田(地)」(がくでんち)とは

左の図は、大正5年の地図です。地図の中央付近(現在の平岡付近)に「學田(地)」と記されています。

「学田」とは、小学校や大学など、学校が所有した山林・田畑のことです。開拓初期の学校は公立の学校であっても、主に住民の拠金で子弟の教育費が維持されていました。

そこで、開拓使は教育運営の補助のため、各学校(村)に土地を与え、その収益で学校運営(教育費)の安定化を図る施策を取りました。

2. 「月寒村厚別一帯連絡図」の「学田地」

左の図は、あしりべつ郷土館所蔵の「月寒村厚別(あしりべつ)一帯連絡図」(現在の住宅地図)です。

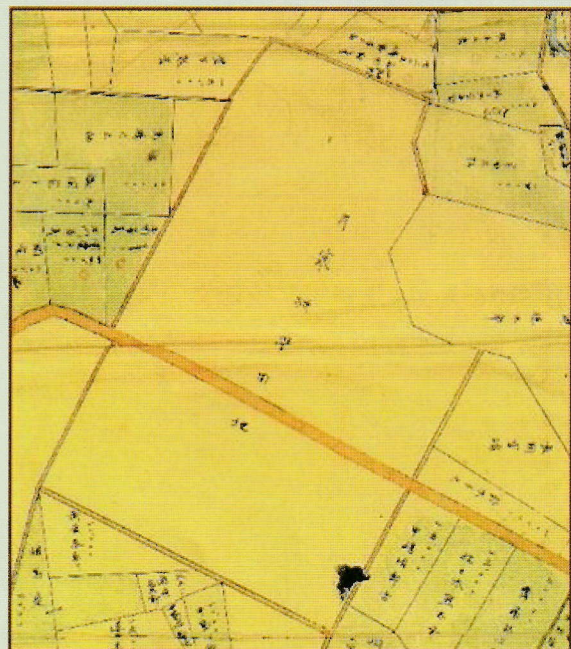
地図の中央に「月寒村學田地」と記されています。

(方角は、上方が南になります。)

月寒村の「学田地」は、何度かの申請の後、明治18年(1885年)4月21日付けで付与されました。

土地の広さは、68町8反20坪=206,420坪(約68ha)でした。
<注:町=約1ha>

現在の清田区、平岡・真栄・美しが丘地域で、旧国道36号線の南北に当たる一帯となります。



3. 月寒歩兵第二十五聯隊の「厚別演習場」に

ところが、この「学田地」すべてが、明治34年(1901年)に、月寒歩兵第二十五聯隊の「厚別演習場」となります。(明治34年12月26日付「北海道タイムス」に掲載)

そして、月寒村の「学田地」は、明治35年に、現在の北広島市の仁別(ニンベツ)の箇所と交換されました。

左の図は、「厚別一帯連絡図」と札幌法務局南出張所の図面(昭和7年調査)を参照し、現在の地図に重ね合わせて作図した「学田地」の区域です。

「厚別演習場」は、当時、弾薬庫が造られ塹壕が掘られました。また、近隣の土地の収買も行われました。

戦後になって、「厚別演習場」は解放されて、平岡開拓団・里塚開拓団が入地し開墾が行われました。その後、昭和40年代頃から都市化による土地造成がなされ、現在のような住宅・商業地などへと変貌しました。

記:了寛紀明

